

令和3年度豆類需給安定会議、 令和3年度豆類産地懇談会、 第67回豆類生産流通懇談会の開催

一般社団法人全国豆類振興会

北海道産の豆類に対する理解を一層深め、豆類の生産・流通の安定と消費の維持・確保を図ること目的として、(公社)北海道農産基金協会、(一社)全国豆類振興会及び北海道豆類振興会、の3者が主催して、9月9日(木)にリモート方式により、令和3年度の豆類需給安定会議、豆類産地懇談会、第67回豆類生産流通懇談会を開催しました。以下に概要をご紹介します。

1. 現地作柄報告(十勝農業試験場)

小豆の生育については、高温・干ばつにより落花が見られたものの、その後の適度な降雨と気温により着莢数が平年並となったことから、8月20日現在の小豆作況は平年並となった。菜豆作況については、高温・干ばつによる落花と着莢不良により手亡・金時とも着莢が少なくなり、不良となった。

2. 話題提供

1) 豆類の需給動向(ホクレン)

前豆年度は、土産物の需要が減少したこと等により小豆の消費量が減少した。一方、令和2年の小豆の作付けが2万2千haまで回復して本豆年度の小豆供給量は150万俵まで戻った。しかし、消費量も戻ってきており、令和3年の小豆の作付けが大豆の高価格の影響で3千ha程度前年を下回ったこともあり、現在の面積が続けば、数年後にはまた供給量が足りなくなる可能性が出てくる。今後とも、生産者の面積増に向けたメッセージを発信していきながら、安定供給に向けた努力をしたい。

2) 海外情勢報告(雑穀輸入協議会)

中国産の小豆は、2020年産の作付け面積が過剰在庫から減少した上に、作柄も芳しくなく、価格は過去最高値を記録した。しかし、2021年産小豆は順調に生育しており、今後は価格が下落に転じると予想されている。

2021年産のカナダ産の小豆は、概ね平年並の単収が予想されているが、作付け面積を確保出来ていないことから前年の3～4割減となる見通しである。

3) 試験研究動向（十勝農業試験場）

小豆の収穫には大豆の3倍以上の時間がかかり、このことが小豆の作付け面積拡大のためのネックになっている。そこで、小豆の育種目標の優先順位については、コンバイン収穫適性等を1位、ダイズシストセンチュウ抵抗性等を2位としている。

4) 北海道畑作農業の持続的発展に向けて（北海道農政部）

「北海道畑作農業の持続的発展を考える懇談会」の中間まとめのなかで、「需要に応じた食料の安定供給」と「環境に配慮した持続的生産の推進」の2つを基本として取組み、多様な輪作体系を確立して農業者が夢と希望を持って取り組める畑作農業を推進することを、基本的な考え方として定めた。

3. 意見交換（コロナ禍における道産豆類の需要拡大について）

1) 需要拡大の取組について（ホクレン）

和菓子の販売促進会の開催、雑誌等への広告の掲載、新商品の開発等により小豆需要拡大に取り組んできた。

2) 新型コロナウイルスの菓子業界に与えた影響について（全国和菓子協会）

昨年の4～6月の需要はかなり厳しかったものの、家庭内消費は堅調であった。その後回復の兆しが見えたが、年明けには再び厳しくなった。今年も家庭内消費は堅調だが、土産物等は昨年同様不調である。中長期的に見た場合、コロナ禍の収束後には需要は回復するだろうが、ライフスタイルが変化して人の集まる会合が少なくなれば、和菓子の需要は影響を受けるだろう。

3) 意見交換（コーディネーター：北海道地域農業研究所顧問 黒澤不二男）

（黒澤）今回はコロナ禍の雑豆に与える影響について意見交換したい。その他、地球温暖化、SDGs等についても配慮して議論したい。

（ホクレン）去年は、和菓子の消費拡大対策を行ったことから、ある程度の需要を確保できたが、今年はそうした対策も行っていないので苦しい。

（雑穀協）海外では、雑豆を食事として食べており、需要が伸びている。日本における雑豆の需要は低調だが、輸入価格は暴騰している。なお、中国の今年の小豆生産については、異常気象やコロナ禍の影響をあまり受けていないようだ。一方、ミャンマーのバタービーンのプロセス豆の生産状況は現時点では見えない。

（黒澤）国内の生産現場の状況はどのようになっているか。

(十勝地区農協農産対策委員会) 豆類の作付けは、大豆が増加して小豆が減少している。また、干ばつの影響で作柄はあまり良くない。特に大正金時は粒径が小さく空莢も多くて厳しい状況である。但し、生産現場にはコロナ禍の影響はあまり見られない。

(黒澤) 十勝は人材派遣の先端地域であり、農業労働力の確保といった面からの影響は避けられたのかも知れない。消費構造の面からは変化があったか。

(全国調理食品工業協同組合) 金時豆に絞って言うと、むしろコロナ禍の恩恵を受けている。また、高齢化で煮豆を食べる人が増えており、需要が減ったということもない。但し、大正金時の価格が平成29年から60kg当たり3万8千円を中心に推移しているが、これは需要拡大のためには少々高い。多収穫の品種を改良していただき3万円前後で供給していただければ需要の拡大はまだ可能だと考える。

(和菓子協会) 和菓子の需要は年中行事との結びつきが大きいこともあり、コロナ以前から衰退傾向にあった。また、若い人が年寄りと暮らさないということも需要減退に影響していると思われる。現在は、コロナ禍の影響で個食化が進んで銘々が好きなものを食べていることから、消費行動が一過性となっている。

(黒澤) 今後、コロナ禍も収束に向かうだろうが、いずれにしても生産性向上は重要だろう。そこで、育種のスピードアップや機械収穫適性品種の育成を進めて欲しい。一方で、豆類の機能性に注目した品種や食品アイテムの作出も必要だが、そうした研究は進められているのか。

(豆類協会) 当協会では公募を実施して、雑豆の需要拡大に関する研究課題にも助成しているが、応募課題の中には血糖値や血圧の抑制といった豆の機能性に注目した新商品開発に関するものが見られる。こうした課題に対しても、今後とも適切に助成していきたい。

(全国甘納豆組合連合会) これからコロナが収束しても、完全にコロナ以前状態に戻ることはないだろう。甘納豆の消費者は高齢者が多いが、ネット通販もかなり利用されている。我々も、さらなるネット通販の活用を図っていきたい。

(黒澤) 現在では、輸入雑豆の価格の高騰から、国産雑豆への回帰がみられており、関連して国産雑豆に対する多様な取組と情報提供も行われている。最後に、国産雑豆の育種に取り組みまれてきた十勝農試にお礼が言いたい。

4. 各地の小豆生育状況



北海道産小豆(音更町:8月24日撮影)



カナダ産小豆(オンタリオ州:8月3日撮影)



中国産小豆(黒竜江省:8月15日撮影)